

平成30年度 久米島西中学校 学校評価

【成果と課題、3学期・次年度に向けて】

※ 生徒・保護者・教員ともに4段階で評価。7割となる2.8以下を課題、8割となる3.2以上を成果としてとらえ、分析・考察を行っています。

1. 学校評価から見えてくる成果 ※ () は評価項目番号

- 生徒指導については、一学期と同様に生徒・保護者・教職員とも高い評価を維持しており、あいさつ・身なり等を含め、今後も実態を把握し、迅速かつ適切な生徒指導に継続して取り組みたい。(教職員評価43~46、生徒評価23、保護者評価16)
- 84%の生徒は「学校は楽しい」と考えており(14)保護者の96%も「子どもは楽しく学校生活を送っている」(11)と回答している。生徒の悩みや相談への職員の対応についても、「対応してくれている」と高い評価を得ており(生徒9~11、保護者12)今後も教育相談やQ-Uアンケート、日常の生徒との対話等を大切にして、全生徒が楽しいと思える学級・学校経営を目指したい。
- 人権尊重、豊かな心の育成について、生徒・保護者・職員とも意識して取り組んでおり、評価も3.2~3.5と良好である。ただ保護者の評価が各項目0.1~0.2、職員の日常的な実践の項目が0.4ポイント下がって、差別・偏見に対する対応の継続・徹底を図る必要がある。(生徒16・20、保護者14・15・28、職員26・27)
- 部活動について、三者とも3.2~3.5の評価で良好である。(生徒19、保護者20~22、職員52~54)今後の取組として教職員と保護者が連携した部活動に向けて改善・充実に努めていきたい。

2. 学校評価から見えてくる課題

- 学習面において「自分の考えをまとめる」ことについては改善されたが、「自分の考えを発表する」ことについては依然として課題である。(生徒4)。生徒に「分かるまで先生に聞くこと」を促すとともに、生徒自身が考え、表現する活動の工夫・改善の充実に図り、全校体制で徹底する必要がある。
- 家庭学習について、生徒は「家庭学習をやると授業がわかりやすい」の評価が2.9(7)で継続課題として捉えたい。各種調査からも学習習慣の形成について課題がみられることから、主体的に取組、かつ「分かった」の実感が伴う家庭学習の在り方について学校で検討し、取り組む必要がある。
- 読書については、生徒が2.5(25)、保護者が2.4(29)、職員が2.9(58)と依然として大きな課題である。
- 「家庭に向けての通信(学級だより等)の取組」(教職員19)が一学期に比べ課題となっている。

3. 3学期・次年度に向けて

- (1) 授業において生徒が自ら考え、表現する授業づくりの徹底・充実に図る。
- (2) 学習習慣の形成を図るため、家庭学習の取組の充実に図り、授業で定着が不十分である生徒への指導に取り組む。
- (3) 読書に関する実態を生徒と共有し、読書の意義を伝えると共に主体的に図書館を利用するような手立ての推進を図る。
- (4) 保護者向けの通信(各種だより等)やじんじんメール、ホームページ等を活用し、学校の様子を保護者に周知する。